

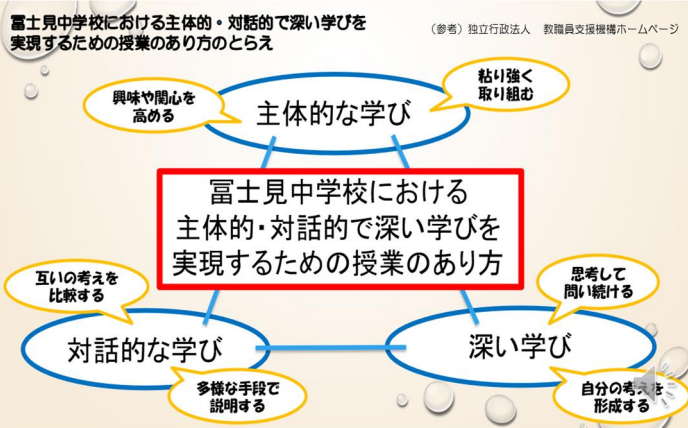
「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



活用事例



概要	
学校名	茂原市立富士見中学校
活用方法	「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」のそれぞれの場面で、ICT機器を活用することで、生徒の思考力や表現力を高めることにつながる。
成果等	実践モデルプログラムのそれぞれの過程で、効果的にICT機器を活用したことで、生徒は主体的に学習に取り組むことができた。

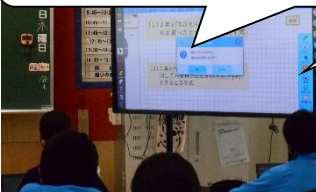


【本校の研究のとらえと4つの過程との主な関連】

見いだす	興味や関心を高める 粘り強く取り組む
自分で取り組む	粘り強く取り組む 思考して問い続ける
広げ深める	互いの考えを比較する 多様な手段で説明する
まとめあげる	自分の考えを形成する 思考して問い続ける

見いだす

「拡大」「資料提示」「動画」
「問題把握」等



「見いだす」場面では、拡大して資料を提示したり、動画を見せたりすることで、関心を高めたり、課題を見つけたりすることにつながった。

自分で取り組む

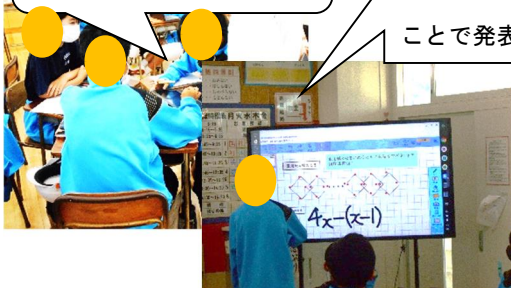
「自力解決」「見通し」
「ヒントカード」等



「自分で取り組む」場面では、端末上で何度も試行錯誤することができ、意欲的に自力解決に取り組むことができた。図を動かす等の操作活動が思考の一助となった。

広げ深める

「比較検討」「説明の補助」
「グループ活動」等



「広げ深める」場面では、グループ活動等で友達に説明する補助教具として端末を活用した。比較検討では、モニターに写すことで発表準備等の時間短縮になった。

まとめあげる

「自分の考えを整理する」
「保存」「次の課題」等



「まとめあげる」場面では、自力解決で使った端末上のシートや友達の考えを見ながら、自分の考えを整理することができた。教師が集約することも容易だった。